生き方
中学校・高校

プロフェッショナル 仕事の流儀

中学校・高校

総合

プロフェッショナル　仕事の流儀　48分

誇りと夢は、自らつかめ
～農業経営者・木内博一～

（2009年放送）

この番組の良さ

一線で活躍中の職業人が登場

自分の将来や職業について学習するとき、現役で働いている方の姿に学ぶのが一番です。「プロフェッショナル　仕事の流儀」は現在一線で活躍中のさまざまな職業人の生き様を紹介する番組です。プロフェッショナルが前線でばりばり働く姿は、生徒たちの目に「かっこいい」と写ることでしょう。インタビューで語られる仕事に対する思いも本物ならではの迫力があります。

農業に新しいチャンスを見出す

農業という職業を敬遠する若者が少なくありません。家族単位の細々とした経営、現金収入の少なさなどが敬遠する理由です。しぶしぶ農家を継いだ木内博一さんもそうでした。しかし彼は、逆境にもめげず、さまざまなアイデアを実践に移し、経営を安定させていきます。「農業に誇りと夢を」を合い言葉に、仲間と力を合わせる木内氏。「農業にはまだまだチャンスがある」と目を輝かせます。

番組活用のポイント

立ち止まらず、次へ次へと進む木内氏の姿に学ぶ

木内氏が家業を継いだとき、農家を取り巻く環境は悲惨なものでした。重労働に明け暮れても手取りは年に150万円。コストをかけて育てた作物も、安く買いたたかれ、作れば作るほど損をすることも。農家はもうからない、誰もがそう思っていました。しかし、市場を通さず直接小売店に販売する「産直」で木内氏は売り上げを伸ばしていきます。ゴボウを短く切ってパック詰めして売り出したところ、大ヒット。その後も様々なアイデアでビジネスチャンスを広げていきます。このように、新しいことに目を向け「次へ、次へ」と進む木内氏の姿に注目させるような学習展開にします。そのため、番組を一気に見せるのでなく、所々で一時停止し発問を投げかけていきます。

家族と仲間への思いが活動の原動力に

木内氏が農業に真剣に取り組むようになったのは、黙々と働くお母さんの姿に心を打たれたからです。重労働をしても自分の自由になるお金を手にできないお母さん。そんなお母さんに「給料を払ってあげたい」という思いで、新しい農業経営に乗り出したのです。近所の人からの批判、不景気、競争相手の出現。そんな逆境も、「仲間とその家族の生活を守りたい」という強い意志で乗り越えてきました。仲間と一緒に知恵を絞り、力を合わせて自然と闘うこと、これが農業の醍醐味だと木内氏は語ります。人とつながって生きること、人と力を合わせて働くこと。そんな価値観や勤労観にも生徒たちの目を向けさせたいものです。

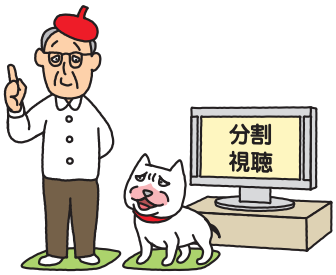
職場体験学習と結びつけて

職場体験学習の後にこの番組を見せると効果的です。自分たちの職場体験について語り合うきっかけに、この番組を活用できます。

（廣川伸一）

学習展開例　授業時間 100分 2単位時間目安

常識を疑え
発想の転換で農業に誇りと夢を



時間配分	学習活動	教師の支援
10分	①「農業」という仕事について思っていること、考えていることを交流し合う。	○地域の特性を考慮して、話し合わせる。農村地域では、見聞きして知っていること、地域の大人たちから聞いたことを引き出して、活発に話し合わせるとよい。それ以外の地域では、社会科で学習したことを思い出させたり、補助資料を準備したりするなどの工夫が必要である。
10分	②番組のオープニングを視聴する。 視聴 TV ・「農業はもうからない」という常識をやぶる （開始〜5分50秒）	○オープニングでは、およそ農家のイメージとかけ離れた木内氏たち農家集団の様子が伝えられる。自分たちが「農業」に対して抱いているイメージとのギャップを意識させるような問いかけをしていく。
30分	③続きを視聴し、木内氏たちの取り組みについてノートに整理し、そのベースとなっている流儀について考える。 ・冷凍ほうれん草、カット野菜など常識にとらわれない発想で広がるビジネスチャンス （5分50秒〜20分29秒）	○常識を疑う発想の転換のおもしろさ、新しいことにチャレンジしていくことの楽しさを印象づけるようにする。
25分	④続きを視聴し、木内氏がどんな思いで農業に取り組んできたか考える。 ・仲間と始めた産直販売 ・会社を設立 ・92人の大集団に （20分29秒〜33分27秒）	○「もうかる農業」をつくりあげる背景にあるもの、家族への思い、仲間への思いについて考えさせる。木内氏が金もうけのためでなく、人のために働くことに意義を見い出していることに気づかせる。 ○インタビューで木内氏が語る農業のおもしろさにも注目させる。
25分	⑤最後の部分を視聴し、木内氏の生き方について感想を書く。 ・次の一手 ・新しいトマト栽培 ・オーストラリアへの進出 （33分27秒〜47分34秒）	○すべてのチャレンジが成功するわけではない。失敗に対して木内氏がどう行動しているかに注目させる。 ○最後に、一人の人間として木内氏の生き方をどう思うか考えさせる。

小学校展開例　次世代の農業をきりひらく大胆な発想とそれを支える農業への夢と誇り

小学校では、社会や総合での利用が考えられる。5年社会では、日本の農業の実態や課題を学習した後に、本番組の冒頭（開始〜13分48秒）を視聴し、固定観念にとらわれない大胆な発想で次世代の農業をきりひらく木内氏の姿から、農業の可能性について考えていくとよいだろう。また、6年総合のキャリア教育では、番組の中盤（20分29秒〜33分27秒）を視聴し、農業に夢と誇りをもって信念を貫く木内氏の生き方から、プロフェッショナルとは何かを考えていくとよいだろう。（加納　真）